

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽北中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 148人

② 数学 148人

#### 5 留意事項

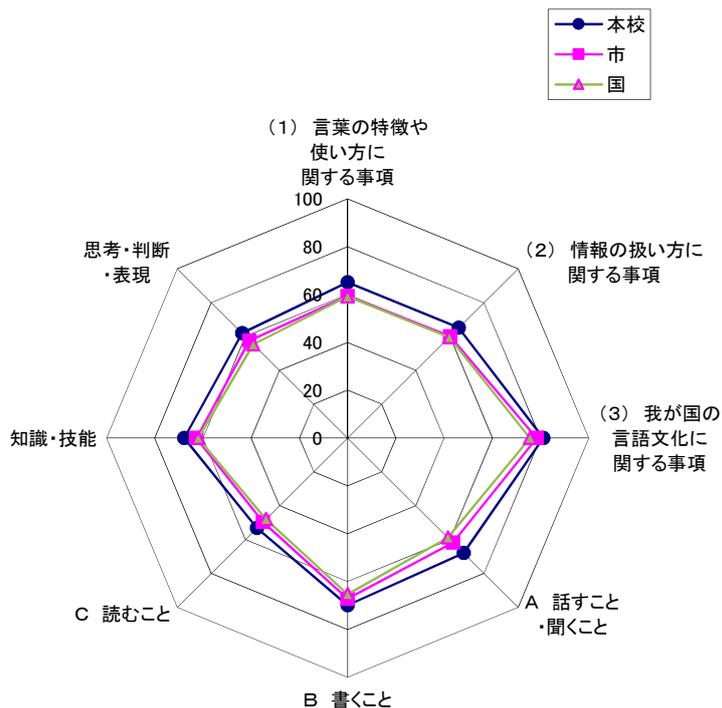
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立陽北中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	65.1	59.3	59.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	65.2	60.0	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	81.1	78.4	75.6
	A 話すこと・聞くこと	68.0	61.8	58.8
	B 書くこと	69.9	67.2	65.3
	C 読むこと	53.2	49.7	47.9
観点	知識・技能	67.8	62.7	62.0
	思考・判断・表現	61.9	57.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

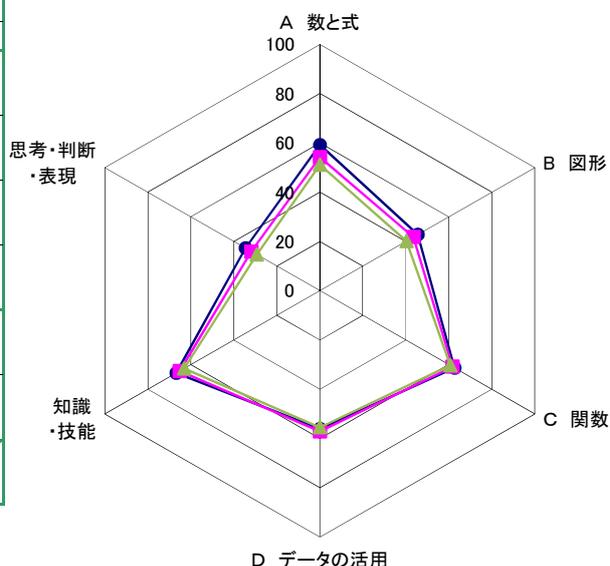
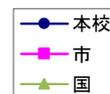
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○正答率は、市平均を5.8ポイント、全国平均を5.9ポイント上回った。特に、文の成分の順序や順応について理解しているかどうかの問題は無回答率が0%であった。 ●文脈に即して漢字を正しく書くことができるかの無回答率が6.8%であった。	・漢字の書きに対する苦手意識をもたせないために、小テストを繰り返して成功体験を多くできるようにする。
(2) 情報の扱いに関する事項	○正答率は、市平均を5.2ポイント、全国平均を5.6ポイント上回った。 ●両問題とも、市や全国と比べてやや無回答率が高かった。	・文章中の情報をどのように得て、その関係性をつかむ学習を行う。特に説明文において「意見と根拠」「具体と抽象」などの関係性をつかめるよう、接続する語句などに注目して文章を読む。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○正答率は、市平均を2.7ポイント、全国平均を5.5ポイント上回った。 ●市や全国と比べて、やや無回答率が高かった。	・我が国の言語文化に関する事項に興味を持てるような授業を行う。今回の問題になっている行書などはもちろん、俳句や古典などにも多く触れ、学ぶことはもちろん楽しめるような取り組みを行う。
A 話すこと・聞くこと	○正答率は、市平均を6.2ポイント、全国平均を9.2ポイント上回った。特に必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかの問題は全国平均より11.1ポイント高かった。 ●話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかの問題の無回答率が6.1%に及んだ。	・他者の話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる力を育む。そのために、発信する際に自分の考えだけでなく、相手の発言や話の展開などを踏まえていけるような取り組みを行う。
B 書くこと	○正答率は、市平均を2.7ポイント、全国平均を4.6ポイント上回った。 ●表現の効果を考える描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかの問題の無回答率が12.8%となっており、すべての問題の中で最も高い数値であった。	・自らの考えを反映し、かつ相手に伝える文章を書く力を育む。そのために、各単元で自分の考えを書くだけでなく、それを他の生徒に伝える機会も設ける。
C 読むこと	○正答率は、市平均を3.5ポイント、全国平均を5.3ポイント上回った。 ●文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかの問題と、目的に応じて必要な情報に着目して要約する問題の正答率が、市や全国を上回ってはいるが、40%台であった。	・目的に応じて文章の中から必要な情報に着目して、要約する力を育む。そのために、段落ごとに何を伝えたいのかなどのまとめを行うなどする。

# 宇都宮市立陽北中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	59.2	54.2	51.1
	B 図形	45.5	43.6	40.3
	C 関数	62.7	61.7	60.7
	D データの活用	56.1	57.1	55.5
観点	知識・技能	66.8	65.2	63.1
	思考・判断・表現	34.6	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<p>正答率は、市平均を5.0ポイント、全国平均を8.1ポイント上回った。</p> <p>○数と式の分野の全ての問題で、市と全国平均を上回っており、良好な結果が見られた。</p> <p>○等式を目的に応じて変形する問題では、市平均を7.7ポイント、全国平均を9.7ポイント上回った。</p>	<p>・数と式分野の正答率をさらに伸ばすために、事象を数学的に捉えるような問題に取り組む。</p> <p>・問題演習の中で、目的に応じて変形された式から事柄が成り立つ理由を説明したり、統合的・発展的な考えを数学的な表現を用いて説明したりできるようにする。</p>
B 図形	<p>正答率は、市平均を1.9ポイント、全国平均を5.2ポイント上回った。</p> <p>○図形の分野の問題で、市と全国平均をほぼ上回っており、良好な結果が見られた。</p> <p>○回転移動の理解について問う問題では、市の平均を6.6ポイント、全国平均を9.4ポイント上回った。</p>	<p>・図形分野の正答率をさらに伸ばすために、三角形の合同の証明や三角形の合同を基にして証明する問題に取り組んでいく。また、事象を辺の長さや角の大きさに注目して新たな性質を見いだす活動を、問題演習の中で取り組んでいく。</p>
C 関数	<p>正答率は、市平均を1.0ポイント、全国平均を2.0ポイント上回った。</p> <p>○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できるかを問う問題では、市平均を4.1ポイント、全国平均を5.2ポイント上回った。</p> <p>●一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかを問う問題では、市平均を4.4ポイント、全国平均を2.5ポイント下回った。</p>	<p>・基本的な知識・技能の定着を図るために、問題演習の中で、表・式・グラフなどの知識のつながりを実感させる。</p> <p>・グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈したり、二つのグラフの変化を数学的に読み取る問題に取り組む、思考力・判断力の育成に努める。</p>
D データの活用	<p>正答率は、市平均を1.0ポイント下回った。全国平均を0.6ポイント上回った。</p> <p>○複数の集団のデータの分布の傾向を読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題では、市平均を3.6ポイント、全国平均を6.5ポイント上回った。</p> <p>●複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較する問題では、市平均を7ポイント、全国平均を4.6ポイント下回った。</p>	<p>・代表値や箱ひげ図における用語の意味や求め方の確認をし、それぞれの値が求められるようにする。また、身に付けた知識を他の問題に利用できるようにする。</p> <p>・統計の分野は、近年、特に重要視されている内容であるので、事象を数学的に捉えたり、それらを比較・選択・説明できるよう、様々な問題演習に取り組んでいく。</p>

# 宇都宮市立陽北中学校 第3学年 生徒質問紙

## ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」の肯定回答は78.2%で県平均より4.6ポイント、全国平均より2.5ポイント下回った。課題が終わらなかつたり、余暇の過ごし方がコントロールできなかつたりするので、生活習慣の調査を保健委員が定期的実施するなど、規則正しい生活習慣についての意識付けを行っているところである。
- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」では肯定的回答割合が81.2%であり、県平均より6.0ポイント、全国平均より9.0ポイント上回っている。スマホの出前講座を実施したり、宇都宮市全体で取り組むノースマホデーなどの効果が表れてきているので今後も継続して取り組んでいきたい。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」では肯定的回答割合が89.4%であった。県平均より3.8%、全国平均より6.1ポイント上回った。家庭教育力の高さがうかがえる結果となった。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」には77.6%が肯定的であり、県平均より7.1ポイント、全国平均より10.1ポイント上回っている。教育相談係のカードを作成したり、生徒PCからも相談ができたり、メンタルサポーターの授業や昼休みの巡回などもさることながら、教職員が丁寧にいつでも生徒に寄り添い話を聞く良い雰囲気が校内に醸成されているためである。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」では、82.5%が肯定的回答をしていて、県平均より2.6ポイント、全国平均より6.4ポイント上回っている。地域の特別支援学校間交流や職場体験学習の積極的な受け入れ態勢、被爆体験伝承者の講話など社会で活躍する大人が関わってことから、生徒も自然と社会に目が向くようである。
- 1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と答えしたのは、75.0%県平均より6.7ポイント、全国平均より5.2ポイント下回った。今年度は教員の研修でICTの効果的な活用について研鑽を深めている。
- 「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」に当てはまる生徒は本校では84.4%だったがこれは県平均より6.0ポイント、全国平均より4.6ポイント下回った。職員研修でスクールタクトやcanva、カフートの研修を行った。またMEXCBTを用いて文部科学省からの、英語のデジタル教材も豊富に用意されているので、今後積極的に取り入れていきたい。
- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」では92.5%であり、県平均より5.1ポイント全国平均より10.3ポイント上回った。社会体験学習のまとめとして、土曜授業（公開授業）で保護者の前で発表した時にも、グーグルドキュメントや模造紙を駆使し工夫した発表内容をよくまとめている。保護者からも好評だったので生徒も自信がついたようだ。今年度の修学旅行のまとめにも昨年度の学びが活かされている。
- 「国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか」では、85.0%が肯定回答している。県平均より4.3ポイント、全国平均より8.3ポイント上回っている。学校行事が終わるごとに行っている振り返りの文章も細かく多岐に渡って表現されているので、その国語の授業での学びをさまざまなところで発揮している。
- 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う生徒が88.8%で県平均より7.9ポイント、全国平均より10.3ポイント上回っている。また、「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」では66.9%が肯定回答だったが、これは県平均より8.8ポイント、全国平均より9.7ポイント上回った。家庭教育力のたまものであり、日々の教科担任の指導の成果であろう。今後も他教科でもこの雰囲気を広げていきたい。
- 「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがありますか」には80.7%が肯定回答をしていて県平均より7.2ポイント、全国平均より10.0ポイント上回った。他教科でも疑問を持ち、共有し、ともに調べること積極的に進める。今後は発言をより促し、教室全体での共有を図って、さらに深い学びへと進めていきたい。
- 「1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか」では、80.0%の生徒が肯定回答をしていて、県平均より4.6ポイント、全国平均より11.2ポイント上回った。ALTの授業ではためらうことなくどんどん発言する姿が見られ、即興で行うspeaking test!に対しても、事前に準備し、熱心に取り組んでいる。今後も多くの場面を経験させて英語で会話する楽しさを味わわせていきたい。

## 宇都宮市立陽北中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習の基盤となる態度や家庭学習(自主学習)習慣の育成	授業での課題やワーク等での復習を通して、家庭学習の習慣化・サイクルを整え、授業と家庭学習の一体化を図る。(授業→その日のうちにワーク等で復習(→次の時間に確認テストでチェック)→できなかった箇所は家庭学習で問題演習を重ねることで理解を深める～家庭学習ノートの活用)	「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」という質問に回答した生徒で、「2時間以上」と答えた生徒の割合は40.1%で県の平均より8.9ポイント、全国平均より8.4ポイント上回っている。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか」という質問に回答した生徒で、「週3回以上」と答えた生徒の割合は43.8%で、県の平均より14.7ポイント、全国平均より20.6ポイント下回っている。	各教科等の指導におけるICTの効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての生徒、教職員が端末を文具の一つとして、授業の内外で日常的に活用することから始め、授業における共同学習ソフトを活用したり、探究的な学びを促進したりするなど、段階的に活用を進める。</li> <li>・教職員は、ICTを日々の授業や校内研修等で積極的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努める。</li> <li>・共同学習支援ツールの、共同閲覧や共同編集等の機能を活用し、生徒の多様な考えの比較・検討や学び合いによる「協働的な学び」の充実を図る。</li> </ul>